

30年2月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 2月1日～ 30年2月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		30/2月	3月	4月
入荷動向	スギ	0.0	16.7	△ 16.7
	ヒノキ	0.0	25.0	△ 25.0
	カラマツ	37.5	33.3	△ 16.7
	トドマツ	50.0	50.0	0.0
消費動向	スギ	△ 12.5	33.3	△ 16.7
	ヒノキ	0.0	25.0	△ 25.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	25.0	25.0
在庫動向	スギ	12.5	0.0	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	33.3	16.7	△ 16.7
	トドマツ	25.0	50.0	0.0

・スギ、ヒノキ原木の入荷動向は2月の横ばいから3月は増加、4月は減少に。カラマツは2月、3月の増加から4月は減少に。トドマツは2月、3月の増加から4月は横ばいに。
・スギの消費動向は2月の減少から3月は増加、4月は再び減少に。ヒノキは2月の横ばいから3月は増加、4月は減少に。カラマツは3か月連続横ばい推移。トドマツは3か月連続増加。
・スギの在庫動向は2月の増加から3月、4月は横ばいに。ヒノキは3か月連続横ばい推移。カラマツは2月、3月の増加から4月は減少に。トドマツは2月、3月の増加から4月は横ばいに。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/2月	3月	4月
スギ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	50.0	25.0	25.0
米マツ	50.0	50.0	50.0
北洋カラマツ	50.0	50.0	50.0
その他	-	-	-

・合板用原木の購入価格動向はスギ、ヒノキとも横ばい推移。カラマツは強含み。
・外材は米マツ、北洋カラマツとも強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・生産に合わせて入荷、今月は安定している。冬場で単板乾燥が悪く生産は予定より落ちそう。在庫は横ばいから若干増えそう。

・全体的に出材増により、2月は入荷量が増えている。針葉樹フロー台板の引き合いが強くなっており、トドマツの消費量が増加傾向にある。スギの在庫は増えており、置き場が埋まってきた。

・スギ材が未だ減少。カラマツは安定的に納材されている。生産計画通り消費。在庫はスギが減、カラマツは増。

・入荷、消費は稼働日数で増減する。現在の在庫をキープする。

(原木価格)

・カラマツが若干上昇。他メーカーとの取り合いになっている。

・外材の現地価格は軒並み上昇して外材の高値は今年は続くものと予想している。

・1月から3月はまで上昇傾向。特にカラマツ。

・市況が落ち着くまで価格はキープする。

30年2月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目	30/2月	3月	4月	
生産動向	構造用(9mm)	△ 12.5	33.3	0.0
	〃 (12mm)	10.0	25.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 10.0	25.0	0.0
	〃 (24mm)	0.0	25.0	0.0
	〃 (28mm)	0.0	25.0	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	0.0	16.7	△ 16.7
	〃 (12mm)	20.0	12.5	△ 12.5
	〃 (15mm)	10.0	12.5	△ 12.5
	〃 (24mm)	10.0	12.5	△ 12.5
	〃 (28mm)	0.0	16.7	△ 16.7
在庫動向	構造用(9mm)	△ 12.5	0.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 20.0	0.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 10.0	0.0	0.0
	〃 (24mm)	△ 20.0	0.0	0.0
	〃 (28mm)	△ 12.5	0.0	0.0

・9mm、15mmの生産動向は2月の減少から3月は増加、4月は横ばいに。12mmは2月、3月の増加から4月は横ばいに。24mm、28mmは2月の横ばいから3月は増加、4月は再び横ばいに。

・9mm、28mmの出荷動向は2月の横ばいから3月は増加、4月は減少に。12mm、15mm、24mmは2月、3月の増加から、4月は減少に。

・在庫動向は全品目とも2月の減少から3月、4月は横ばいに。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/2月	3月	4月
構造用(9mm)	0.0	0.0	16.7
〃 (12mm)	0.0	0.0	12.5
〃 (15mm)	0.0	0.0	12.5
〃 (24mm)	0.0	0.0	12.5
〃 (28mm)	0.0	0.0	12.5

・出荷価格の動向は全品目とも2月、3月の横ばいから4月は強含みに。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

- ・生産遅れで9mmと15mmの生産を減らす。生産した製品はほぼ出荷。在庫はもともと少ない量で推移している。
- ・フル生産継続中。出荷好調で生産即出荷の状況。在庫水準が低く不需要期ながらも在庫が減ってきている印象。
- ・計画通り生産。出荷は12mm、24mmの引き合いが多い。このため在庫は12mm、24mmが減少している。

稼働日数により生産量は増減、発注状況に合わせての生産となる。出荷は12mm、ネダノンとも流通からの引き合いは強い。トラックなどで出荷量が増減する。生産量に合わせて出荷するが、在庫量

(構造用合板の価格)

- ・昨年値上げしてから横ばい。
- ・製品価格は横ばいながら、原材料コストが上昇しているため、いずれ値上りする可能性がある。
- ・出荷価格はほぼ横ばい。
- ・接着剤（フェノール価格）、石油製品、運賃等コストアップの要因が出ている。価格の上昇傾向にあるが、様子見状態。